

# 肛門破壊

～未使用の肛門を催眠状態で  
巨大な縦割れアナルに変えられた  
某財閥令嬢の調教記録～



WARNING!  
**R18**  
ADULT ONLY

「アンタには特別にこの伊織ちゃんのお尻にぶっかける許可を与えてあげるわ。  
ほら さっさとアホ面晒してシコシコしなさい！」





「それじゃ今からアイドルのイメージビデオ撮るんだけど、だいたいのは分かっていたかな?」  
「……はい。オマンコは使わないですよね?」  
「使わない使わない! オマンコ使ったらそれ犯罪でしょ。伊織ちゃん。うちはお尻の穴しか使わないちゃんとした事務所だから心配いらさないよ!」  
「……はい。安心しました……」



「まずは撮影前にざっとオモチヤの説明させてもらうけど、伊織ちゃんは自分でどのくらいまでいけると思う?」  
「そこは、ファンのみんなが応援してくれてるのでもちろん全部いきたいと思います!」

「おおー! 頼もしいね。てっきりオモチヤを前に怖気づくかと思っただけいらぬ心配だったみたいだね」  
「あら? ありがとうございます。でもトップアイドルを目指すものがたかが肛門拡張くらいでビビってられないわよ。」

キキキキ

キキキキ

「さっそく今の伊織ちゃんのケツ穴の具合  
みんなにお披露目といこうか」  
「こうですか…?へ変じゃないですよね?」  
「んゝ年の割には子供アナルかな?」

「えっ? そんなっ!」  
「まずいな……」  
このままじゃ年下の子たちに  
笑われるかもしれないな  
「そんなの嫌ああ!」



「安心して伊織ちゃん!  
僕が必ず伊織ちゃんをトップアイドル  
いや、トップアナドルに相応しい  
縦割れアナルにしてあげるから!」

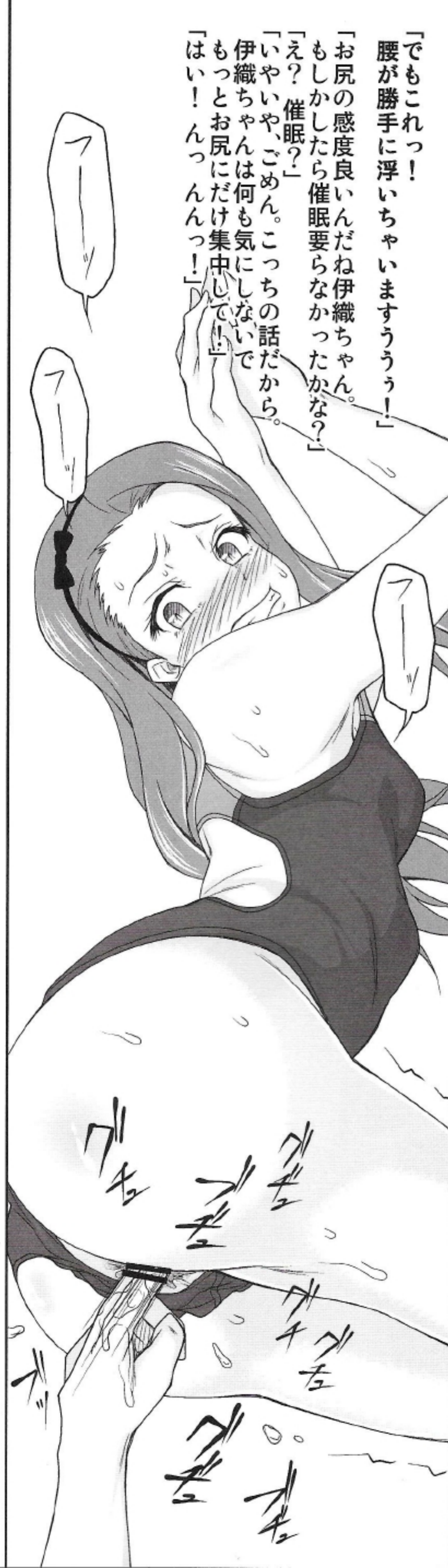
「お願いします! 私のケツ穴  
大人の縦割れアナルにしてください!」  
「それじゃ腰下ろしてお尻の力抜こうか?」  
「はい! こうでいいかしら?」



「自分でケツの穴を開くイメージしてみてください」  
 「えと…どんな感じかしら？」  
 「伊織ちゃんが毎日ウンコするときのことを思い出してみてください」  
 「え!? ウンコ!? そんなの本当に出ちゃうわよ!」  
 「伊織ちゃんのお腹の中もう洗浄済みだから大丈夫だよ」



「いやあああ! お尻変な感じいい!」  
 「ここら逃げちゃダメだって」  
 「NG出ちゃうよ?」  
 「ううごめんさいいい!」



「でもこれっ!」  
 「腰が勝手に浮いちやいますうう!」  
 「お尻の感度良いんだね伊織ちゃん。もしかしたら催眠要らなかったかな?」  
 「え? 催眠?」  
 「いやいや、ごめん。こっちの話だから。伊織ちゃんは何も気にしないで。もっとお尻にだけ集中して!」  
 「はい! んっ んっ!」

ドキ ドキ  
はっ  
ドキ ドキ  
はっ  
ドキ ドキ

「ところで伊織ちゃんは今までに  
お尻に何かモノ入れたことはあるかな？」  
「うう、恥ずかしいけど経験ないわ。  
これが初めてよ」  
「そっか、じゃあ痛くないように  
これたっぷりかけちゃっていいからね」

くちゅ

ヌル  
ヌル  
ヌル

「何かしら？これ」

「ローション知らない？中までヌルヌルにして  
滑りを良くするんだよ」

「へえ、ローションって」

「美肌対策以外にも使い道あるのね。  
なんだか冷たくてお尻の穴が気持ちいいわ」

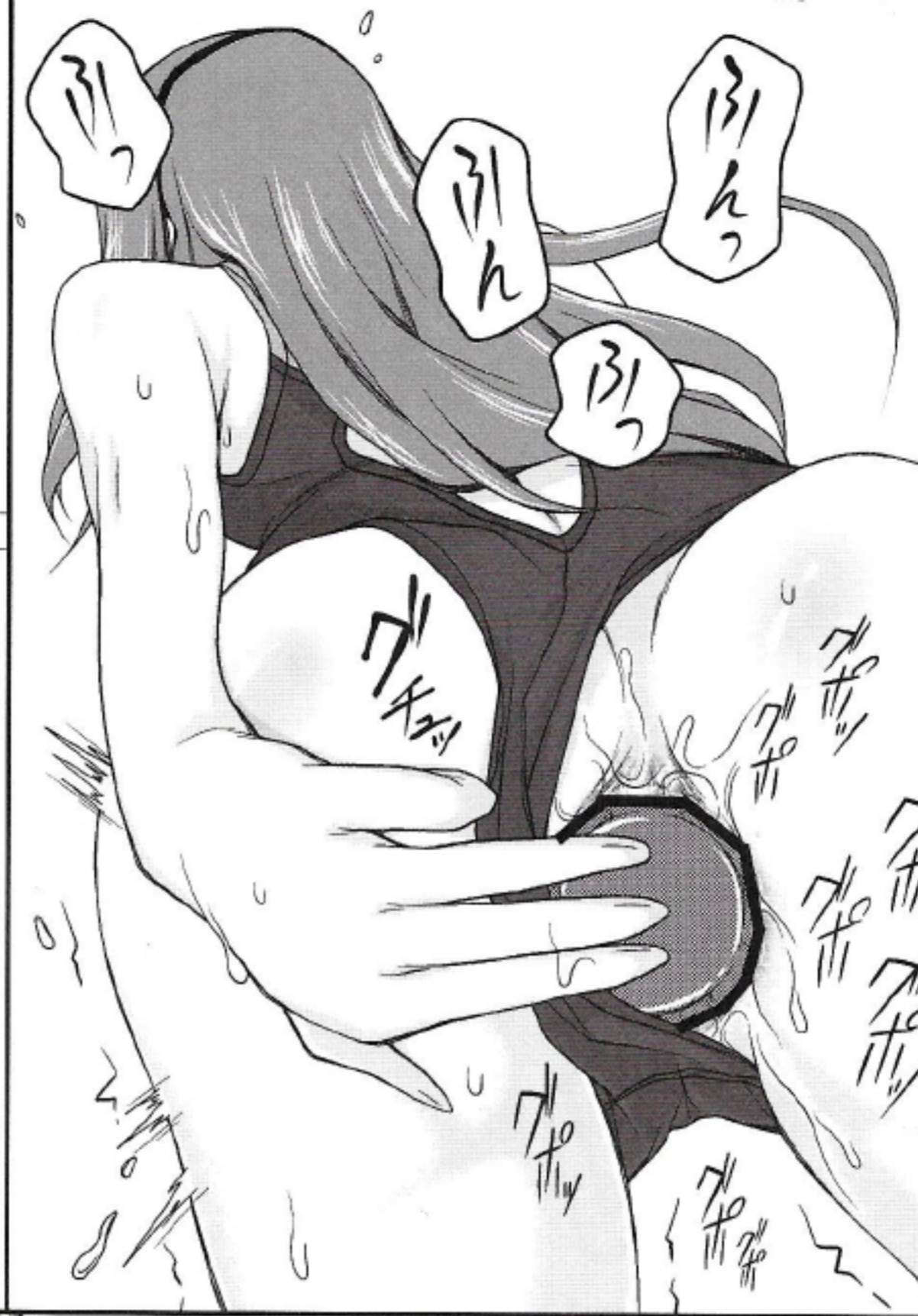
くぽあ

ミチミチ

ググ

「まずは切れ痔にならないように  
このくらいから徐々に慣らしていこうか」  
「あっ？ああっ!?!」  
「お尻に入ってきたあ!?!」  
「伊織ちゃん今どんな感じかな？」  
「知らない!?!」  
「こんな感じ知らないっ!」

「そろそろ自分でしてみようか」  
「おっ? おおお!?」  
「いくねー伊織ちゃん!」  
「いいよー、最初からとばすねー」



「イク! イクイクイク  
イクうううう!?」  
「太いところが気持ち  
いいのおおーっ!」

「余韻に浸っているとこ悪いけど、  
伊織ちゃんの感想いたただいちゃおうかな。  
さて、どうでしたか?」  
「初のケツ穴アクメの感想は?」  
「しゅっ!...:こい! 気持ちよかったです...」  
「肛門があめくれるのお」  
「伊織ちゃんのケツ穴全部持ってかれるのお」

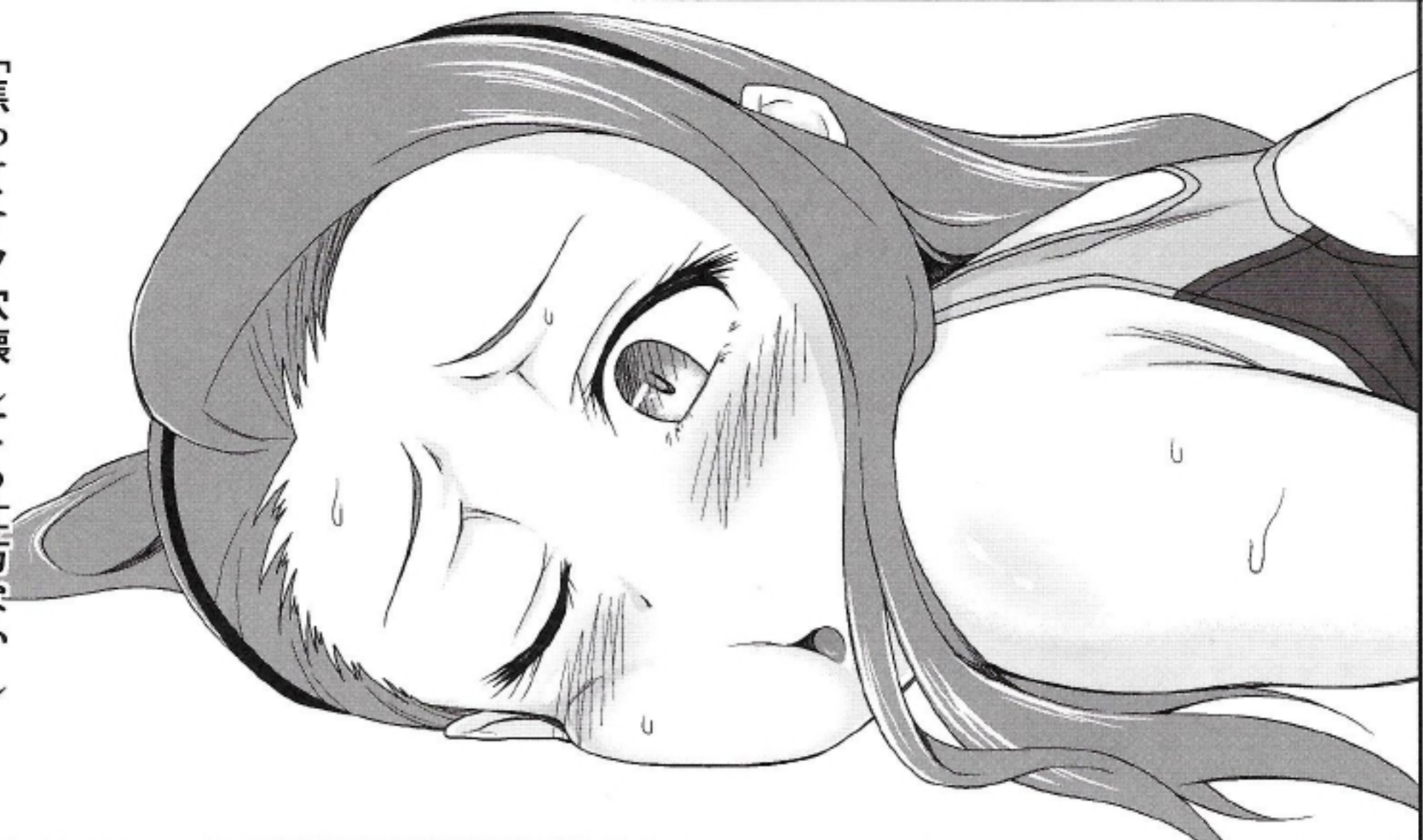


「もう一発で完全にケツ穴アクメの  
虜になっちゃってるね」  
「だってえ♥ごんなの知っちゃったら  
伊織ちゃんもう無理い♥  
毎日お尻いじっちゃう♥」  
「凄いな。いくら催眠でもここまで堕ちた子  
初めてだぞ。しかもまだ初日で...」

グキョッ  
グキョッ

グキョッ  
グキョッ

「焦ってケツ穴壊しても仕方ないし  
初日はこのくらいにしておこうか。  
寝る時も肛門括約筋が戻らないように  
アナルプラグでフタしておくけど、  
どう？ 苦しくない？」  
「そうね…この姿勢も思ったより  
悪くないわね。普通に寝られそうだわ」  
「それはよかった」



「明日からはもっとハードになるから  
朝までしっかり寝ておいて  
ちゃんと体力回復しておいてください」  
「はい、了解です！」

「それでは契約期間までの  
二週間お互い頑張って  
いい作品にしましょう」  
「はい！ 必ずいい作品を  
してみせるわ！」  
明日からも肛門拡張  
よろしくお願いします！」





「伊織ちゃんおはようございます。さっそく今日も拡張頑張ってくださいませしよろしくー!」  
「おはようございます。今日も一日ご指導よろしくお願いします!」

はあ

キキキッ

「さて、一晩寝かせたアナルプラグは  
どうなってるかな?」

「確認お願いします!」

「お? 言われなくてもお尻差し出す姿勢いいね。  
ギチギチだけど肛門痛くない?」

「まったく痛くないわ。むしろどっちかかって言う  
ずっとウンチしてるみたいで気持ちいいわね」

「じゃあ今からもっと  
気持ち良くしてあげるから  
思いつきりふんばってごらん」  
「はい! ふっ……んんん…」

プビッ

ホ

「んっ!? ほおおオオお!」

「伊織ちゃんの初おなら解禁きた！  
ファンは今頃伊織ちゃんの  
生おならが聞けて喜んでるよ！」  
「そ、そうなの？ 私のおならなんて  
聞いて嬉しいのかしら？」  
「ファンなら絶対嬉しいって！  
ほら、伊織ちゃん。ファンに向けて  
一言ちょうだい！」

「ファンのみんなー♥  
たっくさん臭くて大きいやつ  
プープー出してあげるから、  
伊織ちゃんのおならでありがたく  
シユシユしなさいー♥」

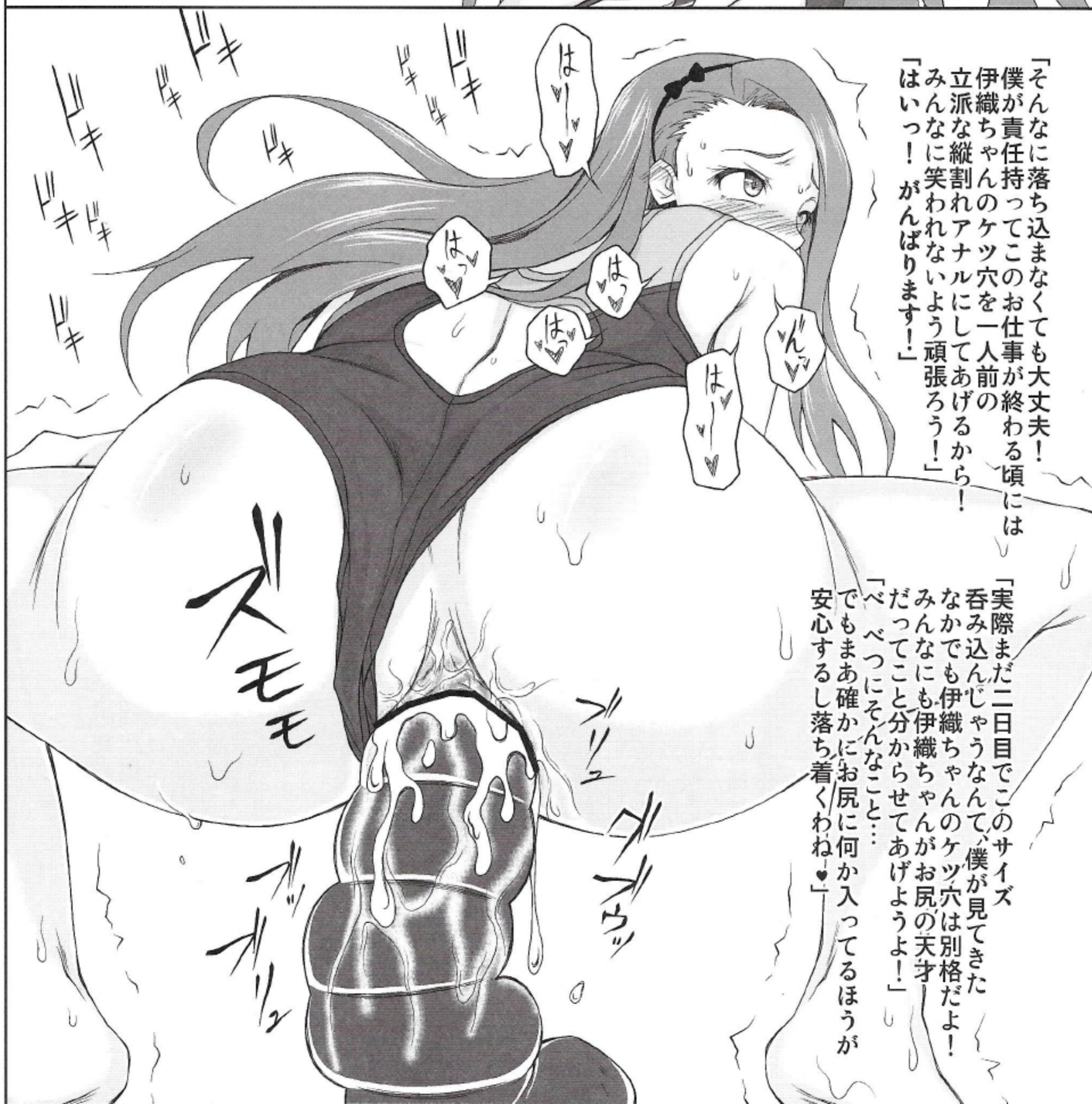
「ふっ！ ふんん！  
ふっふう！  
んんんんいいいい！  
ああ、すごいにおい……  
みんなににおいまで  
お届けできないのが  
残念だわ。にひひっ♪」

「一晩揚げただけなのに  
予想以上に豪快なおならだったね。  
でも伊織ちゃん年頃だと正直  
こんなもんじゃやないでしょ？  
美希ちゃんとか凄いいんじゃないの？」  
「あう…恥ずかしいんだけど私  
みんなとこういう話したことなくて  
その……」  
「あーまずいねそれ。伊織ちゃん完全に  
周りから子供だと思われてるよ」  
「う…やっぱり？」



「そんなに落ち込まなくても大丈夫！  
僕が責任持ってこのお仕事が終わる頃には  
伊織ちゃんのケツ穴を一人前の  
立派な縦割れアナルにしてあげるから！  
みんなに笑われないよう頑張ろう！」  
「はいっ！がんばります！」

「実際まだ二日目でのこのサイズ  
呑み込んでしゃうなんて、僕が見てきた  
なかでも伊織ちゃんのケツ穴は別格だよ！  
みんなにも伊織ちゃんがお尻の天才  
だってこと分かせてあげようよ！」  
「べべっ！そんなこと…  
でもまあ確かにお尻に何か入ってるほうが  
安心するし落ち着くわね♥」



「それはもう才能でしょ！  
トランプアナドルの資質ありだよ！」  
「そうかしら……」

「お？ 伊織ちゃんアナドル褒められて  
やる気になってるね！」  
「べつについそんなんじゃないけど  
仕事で手なんて抜いてられないもの、  
求められたら全力でイクわよ！」  
「さすがにプロだね」  
「このくらい当然よ！」

「あーっ！ あっアツ？ あアアッ!?」  
「そろそろかな？ ベストな瞬間を撮りたいから  
イクときはきちんと申告お願いします」  
「イキますっ！ 朝からケツアクメで  
伊織ちゃんイクうううーっ！」

「いいよー！ 伊織ちゃん最高だよー！  
まさに『ケツ』って感じの大迫力！  
いやー、良い画が撮れたよー！」

!!?

「伊織ちゃんのケツ穴にイキ続ける感覚覚えさせとこうか」  
「え？ イキ続ける……」  
「このままもう一本入れるよ」  
「あっ!? なにこれ!? すごいっ!?」  
「排泄感やばいですっ!」  
「こんなの漏れちゃうわよ!」

「お尻が楽な姿勢とっていいよ」  
「あ……この体勢落ち着くかも……」  
「なんだかお尻のごとしか考えられなくなりそうだわ……」



「落ちてきてきたら自分でアナルしてフアンにアピルしてみようか」  
「あっ!? アっ!? しゅごいっ!」  
「何がどう凄いのかな?」  
「入口がグイグイって拡がって頭の中全部おケツに持ってかれちゃうう!?」  
「ああアアアアアアアア!」  
「ライプより全然気持ちいいいい!」



「凄い！伊織ちゃんのケツ穴  
五本も呑み込んだよ！」  
「アアああああアア!? 壊れるう？  
お尻壊れちゃううウウウウ!?」  
「肛門が必死に押し出そうとして  
ケツの筋肉エグいことになってるよ」  
「ふぐイイイいっ!?」  
「むりむりむり無理いっ!?」  
「お尻死んじゃううううー!?」



「ごめんね伊織ちゃん。でもほら  
一気にここまで広がったよ!  
このペースなら明日からは  
もっと太くて長いのもいけるね」  
「と当然よ……なんだってこの  
伊織ちゃんのお尻なんだから♡  
期日以内でしっかり  
プロの仕事を見せてあげるわ♡」



「そのまま腰下ろして」  
「はい♥」  
「息止めて」  
「オおっ!? ホオおお!」



「よし! 入った。  
自分でアナニしながら  
ファンにサービスして」  
「オオおおおお♥  
大サービスよおお♥  
この伊織ちゃんのおお♥  
根元までくわえ込んでるところ  
みんなしつかりその目に  
焼きつけときなさいい♥」



「伊織ちゃんのケツ穴もだいたいぶ筋が伸びてきたし、  
今日からは遠慮なくいかせてもらおうからね」  
「ああ♥ 嘘おっ? 太いい♥  
そんなの入れたら伊織ちゃん  
絶対おかしくなっちゃうううー♥」  
「どか言いつつ腸汁垂らして期待してるの  
バレバレだよ」  
「やん♥ 恥ずかしいい♥」

「イイイイイイイイ  
お腹に響くうううーっ  
ケツ穴に効くうううーっ」

「イクっ!? イグうううーっ  
肛門めぐれりゅうううううーっ  
これっ♥ ケツ穴メチャクチャに  
なっちゃううううーっ!?  
私のウンコぶっとく  
なっちゃううううううーっ♥  
「伊織ちゃんのイク瞬間  
ばっちり撮れたよ」



「伊織ちゃんのケツ穴もうすっかり  
縦割れアナルだね!  
さっきからオナラで腸汁が  
泡立ってるの自分で分かるかな?」  
「あっ! やだ...」  
「勝手にオナラ出ちゃうううう  
ケツ穴ブジュブジュいってるの  
聞かないでよお♥」  
「もう自分で閉じられないくらい  
広がってる証拠だね」





「今日からの拡張はさすがの伊織ちゃんでも少しキツイだろうから、まずはローションで丹念に肛門のシワ伸ばしておこうね」  
「え？あれより太いのいくの!?!」  
「私のお尻今度こそウンチ垂れ流しになっちやわないかしら?」

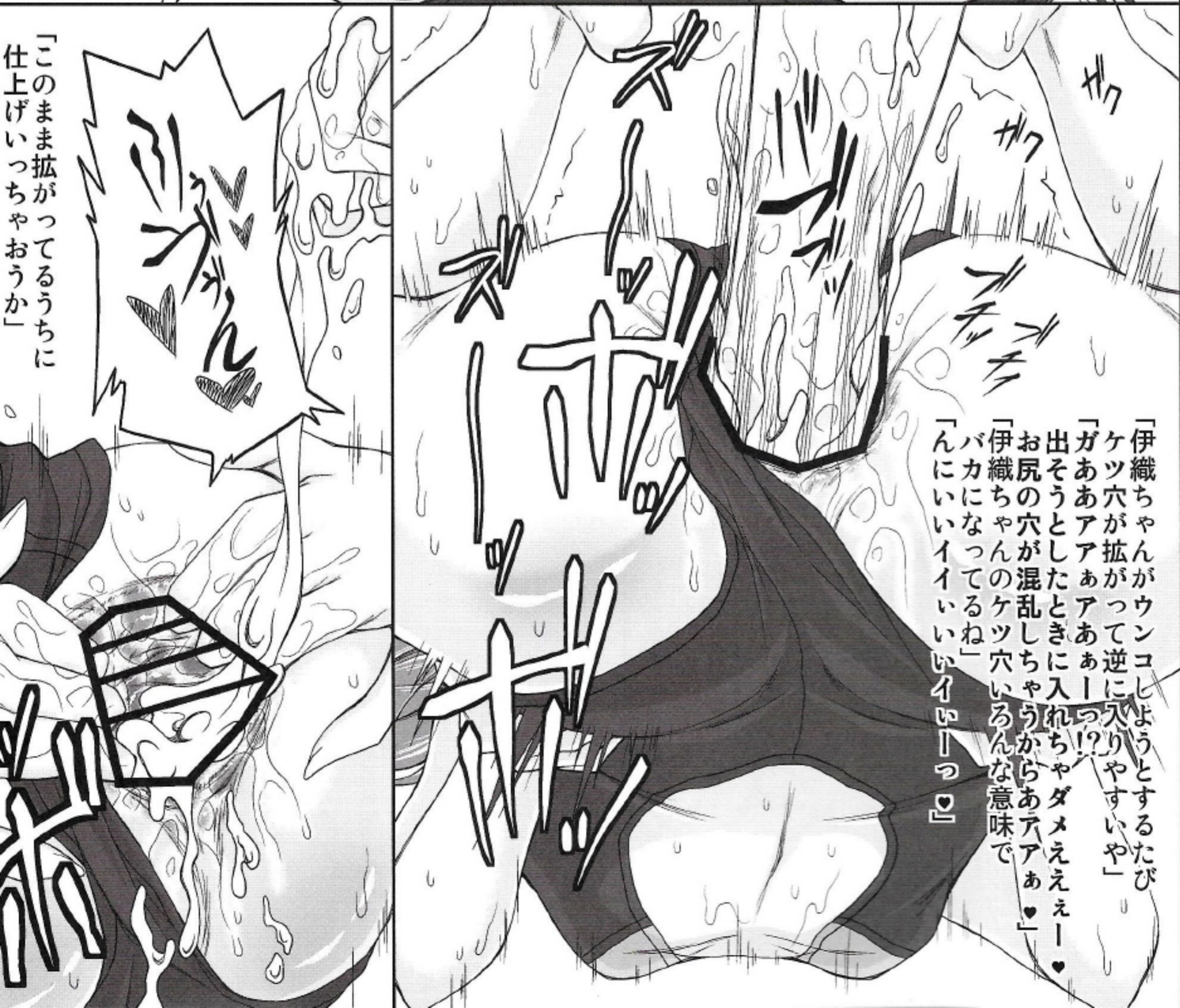
「そこは心配しなくても大丈夫。今日鍛えるのは太さじゃなくて長さだからね」  
「な長さね...いいわよ、上等じゃない!」  
「太いのも長いのもこの伊織ちゃんのケツ穴でなんでも呑み込んでやるわよ!」

「よし、もうだいぶほぐれたね。ここまでやれば問題なさそうだ」  
「それで私のお尻に入るオモチャはどれかしら?」  
「まあ待ってよ伊織ちゃん。その前にフィストで中から少し拡げてあげるから」  
「フィスト!? 腕なの?」  
「私のケツ穴に腕入っちゃうの!?!」





「はいイクよー! ゆっくり息吸ってー!」  
「オっ? オオふう!?」  
「はい息止めてー!」  
「これだめえ♥ ケツ穴ぼじくり返しちゃダメえええー♥」  
「おかしくなっっちゃううー♥」  
「ちゃんと息止めて伊織ちゃん! 直腸で押し返してきちゃダメだよ!」  
「私じゃない♥ お尻が勝手にウンコしようとしちゃうのオオお♥」



「このまま拡がってるうちに仕上げいっちゃうおうか!」

「伊織ちゃんがウンコしようとするたびケツ穴が拡がって逆に入りやすいや!」  
「ガああアアあああー!?!」  
「出そうとしたときに入れちゃダメえええー♥」  
「お尻の穴が混乱しちゃうからアアあ♥」  
「伊織ちゃんのケツ穴いるんな意味でバカになってるね!」  
「んにいいイイいいイイ!」

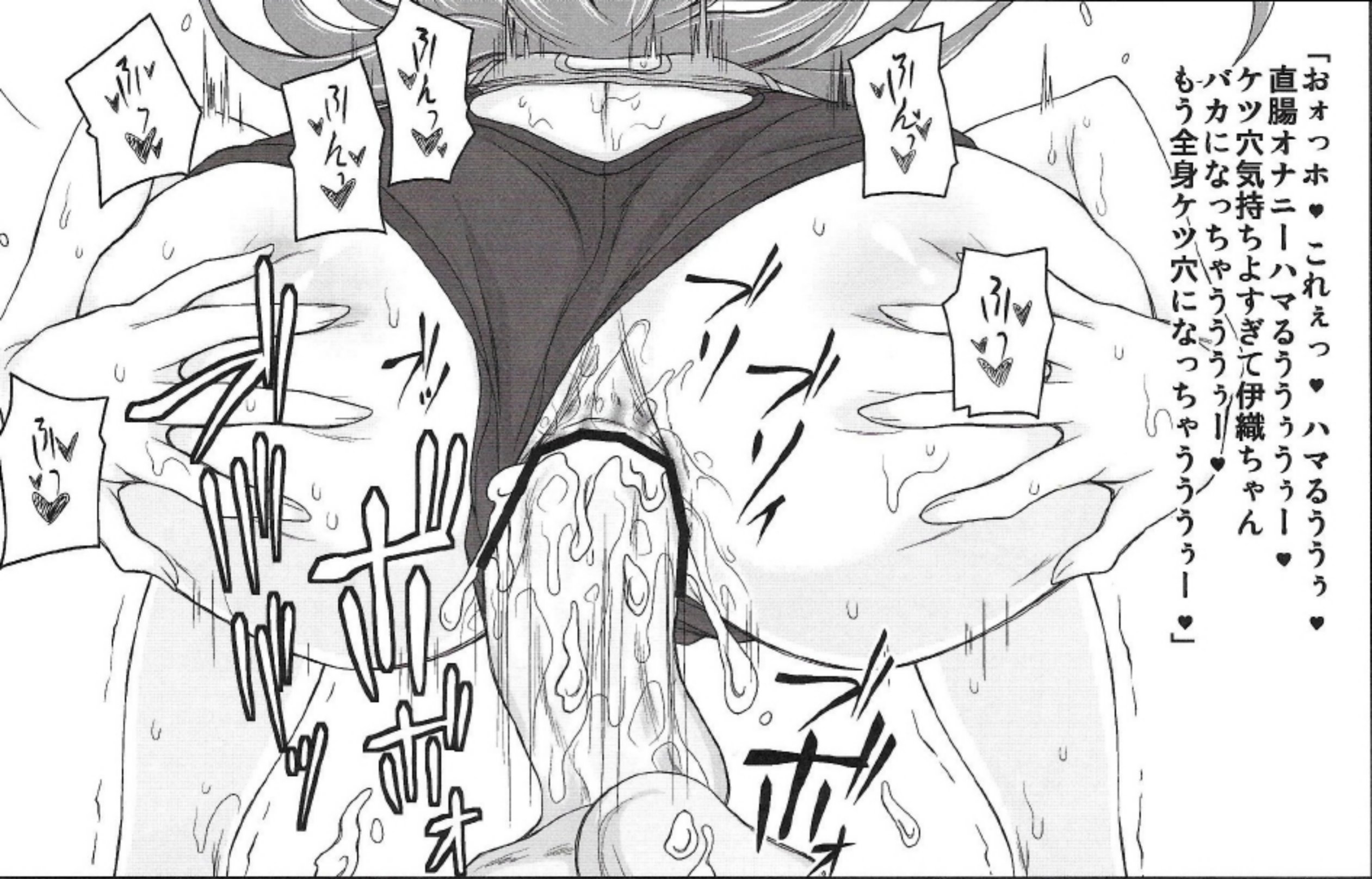
「まずはオモチャに跨ってみた感想  
「あぁん♡ほんとに長い♡  
「こんなの絶対むりに決まってるう♡」



「それじゃあ入れながら自分で  
「はい♡ケツの穴押し抜けてオモチャが  
私の奥まで入ってきてます♡  
お腹の奥深くから突き上げてくるのが  
はつきり分かるわ♡  
この圧迫感たまらない♡」

「んああ♡ほんとむりい♡  
肛門が開きっぱなしで  
手足に力はいんないわよおお♡」  
「頑張っ！伊織ちゃん。  
まだ半分しか呑み込んでないよ」





「おオっホ♥これえっ♥ハマるううう♥  
直腸オナニーハマるううううー♥  
ケツ穴気持ちよすぎて伊織ちゃん  
バカになっちゃううううー♥  
もう全身ケツ穴になっちゃううううー♥」



「んにイイイ♥深いイイイ♥  
お腹の中でゴリユゴリユいってりゅううううー♥  
まさか伊織ちゃん本当にこの長さ  
全部呑み込んだじゃうつもりじゃないよね?」  
「なに言ってるのよ♥全部入れるに決まってるでしょ♥  
ケツ穴が壊れようがもう知ったこっちゃないわ♥  
こんな気持ちいいこと止められるわけないじゃない♥」

「ホオオオおおおオオ!? オオっ♥オオおおおオ♥」  
「本当に全部入っちゃったよ…今まで  
催眠かけてきた中でこんな子初めてだ…  
凄いよ! 伊織ちゃん!」  
「出っけるう…♥長いの出ちゃうう♥」



「いいよ伊織ちゃん! 一気に全部排泄して見せて!」  
「いくわよ? しっかりに焼きつけなさい♥♥」  
「これがトップアイドルの排便姿よおオオおお♥」

「アアアああああアアああアアああ♥  
こんな長いのしたことないいいいい♥」  
「出たっ! 伊織ちゃんの極太一本グソ!」  
「一本グソハマるううう♥ケツ穴ごと  
持ってかれちゃうううううううーっ♥  
イグイクイクっ♥イグうううううーっ♥  
ウンコしながらイグううううーっ♥」



「全部出し切ったところで、伊織ちゃんの本グソでイツちやった  
ファンに向かってコメントお願いします！  
「そんなキモい人いるのかしら♥いくらファンの人でも  
私のウンコしてる姿で興奮するなんてただのド変態じゃない♥  
キモ過ぎて伊織ちゃんドン引きい〜♥」

「ファンにはその言葉ご褒美になってるよ」  
「ほらあ♥おんなおっきいの出ちやったああ♥  
アンタも伊織ちゃんの糞穴に興味あるんでしょ？  
見てあげるからそこで一人で  
シコシコしてみせなさい♥  
イクときはちゃんとこの糞穴に発射するのよ♥  
わかったらさっさとやりなさいっ！にひひっ♥」

「そもそも伊織ちゃんにとって  
糞穴は性器なの？」  
「よく考えたらそれもそうね…  
これがエッチなことだと思っ  
私がどうかしてたわ♥」

「今日で撮影も最後だし  
チンポ入れて仕上がり  
確認しておこうね」  
「え!? チンポっ?」  
「そんなの犯罪じゃない!?」  
「大丈夫。マンコじゃなく  
ケツの穴ならセックスには  
ならないんだよ」

「ああっ♥なんでえ!?  
オモチャより小さいのに  
チンポのほうが糞穴気持  
ちいいいいいっ♥」  
「それは伊織ちゃんがメ  
スだからだよ。全部  
けっきよくメスの穴は全  
部ザーメンを注ぐため  
に全部出されて  
伊織ちゃんの糞穴ザー  
メンになっちゃうわ♥」



「ちょっと調子に乗って  
出し過ぎちゃったかな？」  
「うう♥糞穴からいっぱい出てくる  
思ってたよりずっと熱くて臭くて  
なんだか変な感じね……♥」  
「なにとはともあれ伊織ちゃん  
これで全ての撮影終了だよ。  
この二週間お疲れ様でした！」  
「はい♥お疲れ様です♥」

「伊織ちゃんの記憶からは無くなっちゃうけど  
最高の縦割れアナルの持ち主として  
裏社会でその伝説語り継いであげるからね」  
「無くなる？ なんのこじかしら？」  
「そうそう、伊織ちゃん明日の朝目が覚めたら  
自分の肛門にショック受けると思うけど、  
事務所の方にオムツ送っというてあげるから  
気を強く持って明日からも頑張ってね！」  
「？」





■あとかき

いおりんのアナルが  
たくさん描けて  
楽しかったです。

■奥付■

肛門破壊

2016年12月31日

発行：赤沢冬希  
(れっどべる)

印刷：大陽出版

連絡先：<http://akazawahuyuki.blog63.fc2.com/>

Pixiv id : 549665

18歳未満の購読禁止



れっどべる

REDBELL PRESENTS.

WARNING!

FOR ADULT ONLY